

2017年度決算

福山市決算委員会が10月9日から15日まで開かれ、2017年度の一般・特別会計を審議しました。村井あけみ、土屋ともりの両市議が出席しました。

介護 保険料・利用料の負担を軽くせよ

介護保険料

滞納理由の62%は「生活困難」

介護保険料（65歳以上）は、毎年の引き上げが続いており、前年度比212円増の6万8633円（1人あたり）となりました。

滞納者は2059人で、そのうち62%にあたる1270人は「生活困難」が理由です。保険料負担が、高齢者の生活を圧迫しています。

保険料減免は、わずか15%

しかし、保険料が減免されたのは、わずか191人（15%）です。

減免制度の周知など、高齢者に寄り添った対応が行われているとは言えません。

周知と制度の拡充を抜本的に進めるよう求めました。

介護利用料も負担増

高額介護サービス費の月額負担上限は、3万720

後期高齢者 医療 負担増の押しつけやめよ

後期高齢者医療保険料は6万7860円（1人あたり）で、前年度比1651

円（2.5%）もの負担増です。所得の低い人の軽減措置

が縮小され、9084人が約8100円（1人あたり）の負担増となりました。

保険料の滞納は、553件にのぼります。

一方で、単年度収支は前年度3.3倍の1億7275万円の赤字となりました。

負担増を押しつけながら、黒字を増やすあり方は認められないと主張しました。

0円から4万4400円に引き上げられました。

基金残高は15億円も

一方で、介護給付費準備基金残高は15億3096万円に達しました。基金を使い、保険料・利用料を引き下げるよう求め、決算認定に反対しました。

国保税 引き下げを

1人あたりの保険税額は8万9835円で、前年度比394円の増でした。

保険税を払えず、資格証明書などを発行された世帯は6146世帯に上ります。

一方で、単年度収支は21億9966万円の赤字で、6億9781万円を基金に積み立てました。基金を使い、払える保険税へと、引き下げを強く求めました。

一般 豊かな財政を市民のために

一般会計は、教育や福祉

など福山市の基本的な会計です。歳入1704億6278万円、歳出1648億9602万円で、差引55億6675万円となりました。

36年連続の黒字

実質単年度収支は37億円余で、36年連続の黒字です。

基金総額は331億円超

また、市の貯金である財政調整基金は過去最多の196億6111万円で達し、基金総額は331億円を超えました。豊かな財政を、市民生活向上、福祉充実、安全確保などの諸施策の向上に生かすよう求め、反対討論をしました。

商業 リムふくやま

今後も維持すれば95億円!



福山市は、旧そごう跡地を買い取り、リムふくやまとして商業テナントを貸し出すとともに、公共施設を設置しています。管理運営を東京本社の手企業に委託して5年目ですが、テナント数は激減し、49店舗にとどまります。

実質単年度収支は607万円の赤字で、築25年の同館は老朽化も目立ちます。解体し、売却した場合の支出総額は約21億円です

が、公共施設として維持した場合に改修や管理に約95億円が必要との試算が明らかになりました。今後、さらなる財政負担の増高が予測される中、市として保有し続けるべきでないとして主張しました。

水路転落事故 対策を申し入れ



駅家町近田

10月9日、駅家町の市道沿いの水路に80代の男性が転落し、亡くなりました。

日本共産党市議団は17日、市長あてに申し入れを行い、

事故現場の転落防止対策とともに、負傷事故が起きた場所についても安全対策を行い、予算を抜本的に増額することを求めました。

また、自転車走行時のヘルメット着用の啓発や県・警察・消防などと連携した事故防止対策を求めました。

日本共産党 議員団 NEWS



村井あけみ



高木たけし



土屋ともり



河村ひろ子

発行 日本共産党福山市議会議員団 広島県福山市霞町3-4-25 401 電話・FAX 084-9222815